

◇一橋大学フェアレイバー研究教育センター連載⑯

大学と労働運動、社会運動をつなぐ橋 —アメリカの大学のレイバーセンターとは何か(上)

高須裕彦
小畠精武

一橋大学大学院社会学研究科フェアレイバー研究教育センター
全日本自治団体労働組合

はじめに

二〇〇一年秋に来日されたケント・ウォンさん（Kent Wong：カリフォルニア大学ロサンゼルス校労働研究教育センター所長、同センターを以下「UCLA レイバーセンター」という）から「労働運動の再生のために労働教育が重要である。大学のレイバーセンターは、大学と地域コミュニティや労働運動、社会運動をつなぐ橋である」という強烈なメッセージを受けた。それ以来、私たちは、アメリカの大学のレイバーセンターとは何か、どのような活動と役割をはたしているのかを調査し、その中身を日本の労働運動や大学にどう活かすかを議論し、実践的な模索を進めてきた。

そのままやかな成果として、関係するみなさまのご協力を得て、一橋大学にフェアレイバー研究教育センターを、そして、明治大学に労働

教育メディア研究センターを設立した。それぞれのセンターは財政基盤もなく十分な実績も上げられていないが、従来のアカデミズムのなかでの研究機関とは異なり、労働運動の実践家たちと直接連携しながら調査研究や教育、ワークショップ、メディア制作などをを行なっている。

二〇〇八年九月六日に明治大学において、「アメリカの大学のレイバーセンターとは何か」をテーマに労働教育メディア研究会を開催した。私たちはその研究会で、もう一度アメリカの大學生のレイバーセンターとは何かを振り返り、そこから何を学び、日本でのレイバーセンターの活動に活かすことができるのかを議論した。本稿は、当日の報告や議論をもとに、各報告者が分担執筆したものである。表題と執筆者は別掲のとおりである。

教育と異なることなどがあげられている。したがって、これを尺度とすれば、労使双方を対象に、労使に対して中立的な立場を取る労働

「大学のレイバーセンターとは何か。ここでは「大学のベースを置き、労働運動と連携し、支援する立場から労働調査研究や教育を行う機関やプログラム」と定義しておく。

労働組合や大学等のレイバーセンター（あるいは労働教育プログラム）、労働教育者個人が加盟する「全米労働教育協会（United Association for Labor Education, UALE）」という組織がある。大学機関のUALへの加入要件は、「働く人々の集団的 requirement と利益を増進する」（UAL E規約三条）労働教育を促進するというUAL Eの目的に合致し、独自の予算と一名以上のフルタイムのスタッフを雇用し、労働組合関係者によつて構成されるアドバイザー委員会（Labor Advisory Committee）を設置していることや、一般教養学部や一般的な公開講座、社会人

1 大学と労働運動、社会運動をつなぐ橋
—アメリカの大学のレイバーセンターとは何か

研究・教育機関はレイバーセンターではない。なお、二〇〇九年一月時点で、U A L E に三七の大学のレイバーセンターや労働教育プログラムが加盟している。

ケント・ウォンによれば、経営者のためのビジネススクールがある一方で、六〇年代の公民権運動やベトナム反戦運動、女性運動、学生運

動などの社会運動の盛り上がりを背景に、労働者や労働組合のための労働研究・教育機関が大学にあって当然であるという考え方から、労働

組合が公立大学の設置者（州や市）に要求して、全米各地の大学に約五〇のレイバーセンターが設置されたという（ウォン聞き取り、ウォン二〇〇五）。したがって、「ハーバード大学労働組

合プログラム」を除けば、ほとんどのレイバーセンターが州立や市立などの公立大学に設置されている。

Byrd & Nissen 2003（米国労働教育実態報告、以下「実態報告」という）では、全米各地の大學生にベースをおく四四の労働教育機関が対象としてリストアップされ、実態が調査されている（調査回答四「機関」）。スタッフ数は一名から二七名までと規模は様々である。アカデミック化の圧力が強まり、学位取得コースが増えている。

二二の機関が単位取得プログラムを持つている。また、スタッフに占める博士号取得者の割合は四四%で、増加傾向にある。他方、組合活動経験を有するスタッフが過半数（五八・五%）を超えていて、依然として地域の労働組合と提携した組合員向けコースや受託型の教育が、大きな比重を占めていることなどがわかる。

- 1 大学と労働運動、社会運動をつなぐ橋
—アメリカの大学のレイバーセンターとは何か
- 2 ロサンゼルスの二つのレイバーセンター
—U C L A レイバーセンターとロサンゼルス職業技術大学 レイバーセンター
以上、高須裕彦（一橋大学大学院社会学研究科フェアレイバーリサーチ教育センター）
- 3 コミュニティ・カレッジで地域に根ねた社会人むけ労働教育
—サンノゼ市立大学、サンフランシスコ市立大学、ロサンゼルス・コミュニティ・カレッジ
小畠精武（全日本自治団体労働組合）
(以上、本号)
- 4 修士課程教育に重点を置く（以下、一六九二号）
—マサチューセッツ大学アマースト校レイバーセンター
鈴木 玲（法政大学大原社会問題研究所）
- 5 映像を利用した労働教育の実践
—ハワイ大学ウエストオアフ校労働教育研究センター
青野恵美子（明治大学労働教育メディア研究センター）
- 6 ナショナルセンターが設立した労働大学
—全米労働大学
- 7 アメリカ最大の労働史資料館
—ウェイン州立大学ウォルター・P・ルーサー図書館

中島 酒（千葉商科大学）

山崎精一（A P W S L、東京清掃労働組合）
の批判的思考⁶⁴、実用的な教育（組合運営・活動スキル）²⁸、左翼・階級的な教育²⁵、労使協調教育⁴⁷である。回答者の主観的判断ではある

が、全体の傾向が見て取れる（実態報告五二～五五頁）。

また、実態報告は、レイバーセンターのタイプ分けを行なつていなかが、各労働教育機関の実態を明らかにした表（実態報告一二二～一六五頁）を見ると、二つのタイプが浮かんでくる。それは、調査研究と大学院を含めた学位取得教育に重点をおく「アカデミック型」と、労働者や組合員を対象とした教育に重点をおく「労働教育型」である。労働教育型には調査研究機能のないところもある。

後に紹介する「ロサンゼルス職業技術大学レイバーセンター」には調査研究機能がなく、明らかに労働者や組合員向けの教育に重点をおいた労働教育型のレイバーセンターである。一方、「マサチューセッツ大学アマースト校レイバーセンター」は、一般の労働者向けの教育機能を持つが、修士課程教育に重点を置いたアカデミック型であると思われる。筆者が六ヶ月間滞在していた「UCLAレイバーセンター」は、いずれにもあてはまらず、むしろより労働運動に近い立場から、積極的に労働運動の変革をめざして総合的にアプローチする「運動型」と定義すべきではないかと考える。「ハワイ大学ウエストオアフ校労働教育研究センター」は、労働者や組合員向けの労働教育に重点を置きつつも、当初から「Rice & Roses」という映像メディア制作・発信プロジェクトを推進しているので、「労働教育・メディア型」と言えるのではない

だろうか。このように、それぞれのレイバーセンターは、その地域の労働運動の歴史や特色、強弱、設置者をめぐる政治状況、スタッフの個性などによって規定された多様性を持っている。これは財政にもあてはまる。たとえばUCLAは、Aレイバーセンターは民主党知事時代に予算が倍増されたが、共和党のシュワルツネッカー知事によって、現在、大幅な予算カット攻撃にさらされている。

以上、大まかにアメリカの大学のレイバーセンターの状況を見てきた。以下、具体的な事例を取り上げ、紹介していただきたい。「全米労働大学」と「ウェイン州立大学ウォルター・P・ルーサー図書館」は、大学の一般的なレイバーセンターとは異なるが、労働教育において重要な役割をはたしているので、いの機会にあわせて紹介する。

【参考文献】

*ケント・ウォン (1995) 「大学と労働組合、NPOとのコラボレーションはどうに可能か？」

アメリカにおける現状と課題から探る『社会運動ユニオニズム アメリカの新しい労働運動』(緑風出版)。

*Byrd, Barbara and Nissen, Bruce (2003), *Report on the State of Labor Education in the United States, Center for Labor Research and Education, Institute of Industrial Relations, University of California.*

以下から入手可能。

<http://laborcenter.berkeley.edu/publications/stateoflabor.shtml>

全米労働教育協会 (UALE)
<http://www.uale.org/>

同大学関係機関の加盟一覧
http://luate.org/affiliate_listing/87

(1) それまで別々に存在していた労働組合の教育担当者の組織 (Workers Education Local 189) と大学の労働教育担当者の組織 University and College Labor Educators Association (UCLERA) が、二〇〇〇年に統合されて設立された。

2 ロサンゼルスの レイバーセンター

—UCLAレイバーセンターとロサンゼルス職業技術大学レイバーセンター

ロサンゼルスは、太平洋とメキシコ国境に接するカリフォルニア南部に位置する。そのため中南米やアジアからの移民労働者が大量に流入し、労働市場は全米一多様な労働力で構成されている。七〇～八〇年代にサービス産業を中心とする産業構造に転換していくなかで、ロサンゼルスの労働運動は、組織率を減らしてきた。しかし、九〇年代以降、移民労働者たちを中心とするジャニター（ビル清掃労働者）や在宅介護労働者たちを大規模に組織化し、社会運動ユ

二オニズムと言える先進的な労働運動を展開してきた（高須裕彦・青野恵美子二〇〇五、高須裕彦二〇〇五a・二〇〇五b）。ロサンゼルスでは二つの大学にレイバーセンターが設置され、それぞれ労働運動のなかで重要な役割を果たしている。以下、それぞれを紹介する。

(1) UCLAレイバーセンター

—労働運動と大学をつなぎ、大学の資源を提供する

UCLAレイバーセンターの正式名称は「カリフォルニア大学ロサンゼルス校労働研究センター」(Center for Labor Research and Education, UCLA)である。一九六四年にカリifornニア労働総同盟の要求に応え、バークレー校レイバーセンターと同時に設立された。一九九一年、全米サービス従業員組合(SEIU)の弁護士出身のケント・ウォンが所長になり、レイバーセンターはロサンゼルスの産業構造の変化や新しい労働運動の台頭を反映して、サービス産業や移民・マイノリティ労働者たちの組織化と運動に焦点をあて活動してきた。それは以後大きく発展していくロサンゼルスの社会運動ユニオニズムの重要なアクターとして役割を果たしてきた。

スタッフたちは多くは労働組合や労働者センターなどの活動経験をもち、労働運動の変革を促進していく組織者としての役割意識をもつている。それゆえ、労働運動や社会運動に対し

て、様々な問題提起を行ない、必要とあれば組織やネットワークを作り、積極的に関わりながら活動を続けている。彼らはレイバーセンターを、労働運動と大学をつなぎ、労働運動のための大学の資源（教育・財政・教員・研究成果・施設）を提供する橋と位置づけている。

一九〇〇年に、当時のデイビス州知事（民主党）はレイバーセンター予算を倍増した。

二〇〇一年に、労働組合や社会運動団体の事務所が集中するダントンタウン西部に、「コミュニティや労働運動と大学をつなぐ拠点として「ダントンタウン・レイバーセンター」を開設し、活動領域を飛躍的に拡大した。それゆえに、デイビス知事をリコールして就任したシユワルツネットカーマ州知事（共和党）は、予算カット攻撃を繰り返し行なっている。二〇〇九年予算については知事の拒否権発動で大幅にカットされたが、大学内の予算調整でスタッフの人事費を確保して運営を続けていている。

二〇〇六年春に移民たちのデモが全米に拡がった。ロサンゼルスでは、UCLAレイバーセンター（とくにダントンタウン・レイバーセンター）が効率的に活用され、実践的な教育が行なわれている（高須裕彦二〇〇五c、ウォン他二〇〇八）。

興味深いのは、毎年夏休みに開催される六週間の「サマー・インター・シップ・プログラム」である。これは、学生が労働組合や労働者センター、NPOなどの活動に参加しながら学ぶ体験学習である。週四日は活動に参加し、週一日はダントンタウン・レイバーセンターに集まり、

【UCLAレイバーセンターの活動内容】

主な活動内容は、教育や調査研究、問題提起型のイベントの開催や運動への関わり、国際連帯などである。

教育については、労働副専攻の学生向けの授業や、労働組合や労働者センター、コミュニティ組織の役員・スタッフやマイノリティ（アフリカ系、アジア系、スペイン語系）・女性、ゲイレズビアン活動家向けのリーダーシップ開発短期集中教育コース、各組合の組合員教育の支援などを行なっている。いずれも「民衆教育(Popular Education)」に根ざした参加型教育手法（ゲームやロールプレイ、フォーラムシアター、ボディーマッピング、グループ討論など）が有効に活用され、実践的な教育が行なわれている（高須裕彦二〇〇五c、ウォン他二〇〇八）。

そして、二〇〇八年に春には、「ロサンゼルス郡労働総同盟(Los Angeles County Federation of Labor)」の改革派リーダーとして財務書記長を務めた故ミゲル・コントレラスの名にちなんだ「ミゲル・コントレラス労働者資料センター」

(Miguel Contreras Worker Resource Center)」がダントンタウン・レイバーセンターに設置され、組合や労働者センターのリーダー教育や移民労働者教育において重要な役割を果たしはじめてい

る。ケント・ウォンによれば「ゆくゆくはNPOとして独立させていく」とのことであった。

労働運動や社会運動のリーダーたちの講義を聞いたり、参加型教育手法を使ったワークショップなどによって、労働運動に関わる様々な課題を学習している。これは体験学習と座学・ワークショップを組み合わせたいへん効果的な方法である。インターンシップをへて、学生たちはそれぞれの団体の専従者として就職したり、活動家として行動している。

レイバーセンターが行なう調査研究の目的・問題意識は明確である。労働運動のために必要な調査研究を行ない、その結果を実際の運動に活用できる形にして発表することだ。アクション・リサーチ（参加型行動調査）手法により、労働者参加型の調査活動が進められている。これららの点は日本の労働研究の実態とは明らかに違う。その成果は、移民労働者のオルグや活動家たちの個人史をまとめた *Voices from the Front Lines & Voices for Justice*（両書の邦訳はウォン一〇〇一）、民衆教育の歴史と実践事例をまとめた *Teaching for Change: Popular Education and the Labor Movement*（『変革のための教育・民衆教育と労働運動』）にまとめられ、活用されている。

ユニークな試みは「コマカリティ研究者プログラム（Community Scholar Program）」である。組合や社会運動団体のスタッフや活動家たちと大学院生たちによる、実践的課題（最近のテーマはグリーンジョブ、ウォルマート、地域再開発、労働者教育、コミュニティの組織化など）

をテーマにした半年間の共同研究プログラムで、実際の運動に活用できる成果を出している。

新たな課題を提起するイベントの開催や、各運動体や団体のネットワークづくりも積極的に行なっている。一〇〇四年七月に開催された「ウォルマート」をテーマとする討論集会は、UCLA環境研究所と共に催された。環境保護団体や労働組合、労働者センター、経済的公正を求める運動団体などがはじめて一同に会して議論する場となり、ただちに南カリフォルニアにおけるウォルマート対策のネットワークづくりにつながった。一〇〇四年一〇月にはカリフ

オルニア州の労働者センターの交流ワークショッピングを開催し、相互のネットワークと労働組合との戦略的な関係づくりを促進した。レイバーセンターは、「全国日雇労働者組織化ネットワーク（National Day Laborers Organizing Network, NDLN）」、AFL-CIOや「レイバーラーズ（Laborers International Union of North America, LIUNA）」への連携を進めるうえでも重要な役割を果たしている（ウォン他一〇〇八）。

(2) 口サンゼルス職業技術大学レイバーセンター —労働組合のための実務教育

「ロサンゼルス職業技術大学レイバーセンター（Labor Center, Los Angeles Trade-Technical College）」は、様々な職業技術専門教育を行なつてゐるカレッジのなかに、一九七八年に開設されている。このレイバーセンターは、UCLALC（レイバーセンター）とはまったく異なり、調査研究は行なっていない。労働関係の授業の開講に特化したセンターである。制度上対象は一般組合員を対象としてカリキュラムが設定されて

いる。実際、学生の多くは、高校を卒業したばかりの学生ではなく、三〇代、四〇代の非専従職場委員や現場の活動家たちである。ロサンゼルス郡労働総同盟や各組合は、組合員に学生募集案内を流したり、組合員が参加しやすいよう

果たしている。

国際連帯についても例外ではない。中南米、カナダ、アジア、太平洋地域の大学や労働組合などとの交流を積極的に行なっている。AFL-CIOが禁止する中国やベトナムとの交流も積極的に行なっている。

組合会館を教室として提供したりして、協力をしている。講師は、専任はレイバーセンターの所長だけで、他は非常勤である。組合のスタッフや弁護士、UCLAなどの研究者で、改革派潮流に属する人が多い。授業科目は、団体交渉、労働法、労働経済、苦情処理・仲裁、組織化戦略、組合経営、安全衛生、組合リーダー、交渉技術、政治行動の組織化、女性労働者、セクシャル・ハラスメント、宣伝活動、労災保険など

で、実際の組合活動に役に立つたいへん実務的な内容である。授業は平日夜間や土日に設定されている。授業は科目ごとに受講できるが、単位認定され、規定を満たせば教養学準学士号が取れるようになっている。他大学と単位互換もされている。学位を取りたい人は、働きながら自分のペースで勉強できる仕組みとなっている。労働運動の実践や実務に役に立つ一定の量の労働教育を学位取得とつなげながら制度的に供給する場として機能している。

以上、二つのレイバーセンター事例をみてきた。労働運動に役に立つ調査研究、労働運動を支え、変革をめざす問題提起や取り組み、学生や労働者に対する労働教育など、労働運動を支える社会的基盤の一つとして重要な機能をはたしている。ロサンゼルスでは学生運動を経験した若い人たちや労働専攻の大学院生たちが労働組合で働いている。組合と労働研究者との共同調査やアクション・リサーチなども積極的に行

なわれている。これらの人材を供給しているのが大学のレイバーセンターである。

【参考文献】

*ケント・ウォン (一〇〇三)、戸塚秀夫・山崎精一監訳、「アメリカ労働運動のニュー・ボイス——立ち上がるマイノリティ、女性たち」(彩流社)。

*ケント・ウォン他 (一〇〇八) (中島醜・翻訳)「米国における移民運動の大高揚 (下) 行動へ向けて移民労働者を教育する」労働法律旬報一六六三・六四号八四~八九頁。

*高須裕彦・青野恵美子 (一〇〇五)「ロサンゼルスの新しい労働運動とその社会的基盤」国際労働研究センター編『社会運動ユニオニズム—アメリカの新しい労働運動』(緑風出版)。

*高須裕彦 (一〇〇五a)「アメリカの社会運動ユニオニズム—ロサンゼルスの新しい労働運動に見る」大原社会問題研究所雑誌五六一・五六三号(二〇〇五年九・一〇月号)二九~四八頁。

*高須裕彦 (一〇〇五b)「ロサンゼルスの在宅介護労働者の組織化」(上・下) 労働法律旬報一五九八号一〇~一五頁、一六〇〇号三七~四三頁。

*高須裕彦 (一〇〇五c)「アメリカにおけるマイノリティの労働運動と民衆教育」社会教育五九六号(一〇〇五年六月号)一五~二〇頁。

【参考ウェブサイト】

UCLAレイバーセンター

<http://www.lattc.edu/dept/lashome.htm>

ロサンゼルス職業技術大学レイバーセンター

<http://www.lattc.edu/dept/lashome.htm>

3 ユニティ・カレッジで地域に

根ねぞした社会人むけ労働教育

—サンノゼ市立大学、サンフランシスコ市立大学、ロサンゼルス・ユニティ・カレッジ

大学と労働教育というとケント・ウォンさんの四年生大学UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)レイバーセンターを思いおこすが、アメリカの特徴であるコミュニティ・カレッジでも労働教育は行なわれている。

ティームスターズのホームページには合衆国内のレイバースタディとトレーニングの連絡先一覧が掲載され、東部一九(二)、南部六(〇)、中央部一八(〇)、西部九(三)(ロサンゼルスのコミュニティ・カレッジはまだ入っていない)、合計五二ある。(一)内がコミュニティ・カレッジと思われるもので、五校と少ない。そこで、具体的な事例として、サンノゼ市立大学とサンフランシスコ市立大学、ロサンゼルス・コミュニティ・カレッジを紹介する。

(1) サンノゼ市立大学レイバースタディコース

二〇〇〇年にコミュニティユニオンの交流団として、サンノゼにある「AFL-CIO サウスウェイ評議会」を訪問した。評議会のエミー・ディーン支部長は「カリフォルニア大学サンノゼ校(UC San Jose)」と連携して、労働組合と地域組織の指導者育成、家族に利益をもたらす政策の開発・提言とその実現のためのニューエコノミー(新しい経済)の見方についての取り組み、メディア、提言の技術を学んでいる」と説明してくれた。教育担当ペドラーさんは『労働組合と地域のリーダーシップ研究所』を開設し、カリフォルニア大学サンノゼ校(UC San Jose)やサンノゼ市立大学(San Jose City College)と労働組合との連携をはかっている。教会や市民と一緒に労働組合指導部のリーダーシップ構築もはかっている。経済問題を理解する能力向上、ニューエコノミー、不安定労働、

ティームスターズのホームページには合衆国内のレイバースタディとトレーニングの連絡先一覧が掲載され、東部一九(二)、南部六(〇)、中央部一八(〇)、西部九(三)(ロサンゼルスのコミュニティ・カレッジはまだ入っていない)、合計五二ある。(一)内がコミュニティ・カレッジと思われるもので、五校と少ない。そこで、具体的な事例として、サンノゼ市立大学とサンフランシスコ市立大学、ロサンゼルス・コミュニティ・カレッジを紹介する。

【サンノゼ市立大学レイバースタディコース】

二〇〇〇年

・八月三一日～秋学期(六コース)

各五週間で一単位、週一回夜間開催

- ・労働者の権利
- ・アメリカ社会における労働組合
- ・団体交渉と問題の解決

◎学位カリキュラム

レイバースタディのカリキュラムは二年間のプログラムで、学生に労働と労使関係の理論と実践におけるしっかりと基礎を与えるために設計されています。このコースはサンフランシスコの労働組合の組合員や他の関心を有する個人に提供されます。組織された労働者のアメリカ社会に対する役割と貢献を包括的に紹介します。それらは、従業員の権利を教え込み、労働と労使関係の分野での効率的な実践家に必要な専門的な技術訓練を通じて行ないます。カレッジの卒業に単位を充たし、かつレイバースタディコースの単位を平均C(二・〇〇ポイント)以上的学生は文学準学士とレイバースタディ修了証をもらいます。

委託、地域経済などの知識を深め、ネットワークづくりをすすめている。また、リビング・ウェイジ・キャンペーンの研修も行ない、団体間の相互協力を行なっている。」と語ってくれた。

二〇〇〇年の八月三一日からはじまる秋学期は以下の六コースがあり、それぞれ各五週間で一単位となり、週一回夜間も開催されている。

(2) サンフランシスコ市立大学の レイバースタディ

二〇〇〇年にコミュニティユニオン全国ネットワークのアメリカ交流団として訪問した時に、サンフランシスコ市立大学(City College of San Francisco)の構内で地域ラジオやテレビの番組づくりをすすめている市民団体を訪問した。その時にはレイバースタディについて聞く準備がなかった。地下鉄の駅構内に大きな大学の看板が出ていて、地域に溶け込んでいた。サンフランシスコ市立大学のレイバースタディコースの概要をホームページから紹介したい。

- ・社会科学研究
- ・労働研究体験
- ・シヨップスチュワード研修
- ・秋学期(夜間)
 - ・労働者の権利(一単位)
 - ・組織化・政治行動(一単位)
 - ・現代サービス労働、社会問題(一単位)
 - ・移民リーダーシップ・トレーニング(二単位)
 - ・研究指導(〇・五から九単位)
 - ・労働体験(一～八単位)

政府機関も労使関係卒業生を雇用しています。

◎資格

レイバースタディへの受講は関心あるすべての学生に開かれています。

◎履修コース

◎労働・地域研究 (単位取得コース)

- ・アメリカの中のラテンアメリカ労働者

- ・誰がアメリカをつくったのか?

- ・誰がアメリカをつくったのか? 植民地時代から南北戦争と重建時代

- ・誰がアメリカをつくったのか? 重建時代から現代

- ・最近の労使関係問題

- ・初級歴史的労働コラス(歌)

- ・中級歴史的労働コラス(歌)

- ・上級歴史的労働コラス(歌)

- ・アメリカにおける人種対立と階級連帯

- ・労使関係と地域活動家のためのコンピュータ技術

- ・職場安全衛生の課題

- ・労働組合・地域活動家のためのコンピュータ技術

- ・職場の仲間同士のカンセリング

- ・上級労働者のリーダーシップのためのコミュニケーション

- ・労働者の権利

- ・サンフランシスコの今日の労働と課題

- ・ショップスチュワード研修

- ・団体交渉

- ・移住労働者の権利

- ・産業別労使関係

(3) ロサンゼルス・コミュニティ・カレッジ

「ロサンゼルス・コミュニティ・カレッジ」はロサンゼルス郡(カウンティ)を中心とした独自の「ロサンゼルス・コミュニティ・カレッジ

◎就職

文学準学士を十分に満たす学生は労働関係団体や政府機関へ就職するのに適格です。レイバースタディ卒業生は交渉、職場代表、オルガナイザーまた組合調査、教育、議会対策部門のスタッフの地位を得ています。自治体、州、連邦

- ・上級労働者のリーダーシップのためのコミュニケーション
- ・労使関係と団体交渉過程
- ・労働と地域のリーダーシップの経済
- ・年金、医療福祉問題
- ・労働者のリーダーシップのためのコミュニケーション
- ・上級労働者のリーダーシップのためのコミュニケーション
- ・労使関係と団体交渉過程
- ・労働と地域のリーダーシップの経済
- ・年金、医療福祉問題
- ・労働者のリーダーシップのためのコミュニケーション

教員は労働研究者とサンフランシスコの労働組合と政府機関で活動した経験ある実践家です。

- ・苦情処理と調停
- ・女性雇用問題
- ・職場の安全衛生
- ・職場の権利と差別
- ・経済社会正義の組織化
- ・公共部門労使関係
- ・連邦部門労使関係
- ・職業労使関係の構築
- ・サンフランシスコと湾岸地域の労働運動史
- ・調停の技能と技術

ジ・ディストリクト (LACCD)」によって運営されている。合衆国で最大のエリアを持ち、九つのカレッジから成り立っている。すでに七〇年にわたる歴史を持ち、三〇〇万人を超える卒業生を出している。二十五歳以上が半分、三五歳以上が四分の一と生涯学習の場にもなっている。レイバースタディはそのうちの「ロサンゼルス職業技術大学」で開かれている。

レイバースタディを担う「ドロレス・フェルタ労働研究所 (Dolores Huerta Labor Institute)」は、「全米農業労働者組合 (UFW)」の共同設立者ドロレス・フェルタに因んで名づけられた研究所で、〇七年に設立された。彼女は「私たちにはカーネギー、フォードやすべての大金持ちについては教えられてきたが、働く人々が何をしているのかについては教えられない」との言葉を残している。研究所はLACCDとロサンゼルスの労働組合との教育パートナーシップであり、LACCD理事会とロサンゼルス郡労働総同盟、アメリカ教員組合 (UFCW)、ロサンゼルス教員ギルド、ロサンゼルス職業技術大学レイバーセンター、UCLAレイバーセンター、一二の労働組合によって始められた。

目的は、コミュニティ・カレッジの学生に長いあいだ無視されてきた歴史、豊かな異なった文化的伝統、労働者の現在の状況について教育し、学生たちに職場における経験を分析し理解する道具を身につけることだ。

研究所長のジョー・デロールさんは、二〇〇

〇年九月に私がコミュニティユニオンの訪問団の一員として来た時に会ったことがある。シユブレビコールが得意なSEIUのオルガナイザーとして老人ホームなどの組織化を進めていた。

今日は話を蓄え、いかにも落ち着いた研究者の雰囲気で話してくれた。

ニオンリーダーは全員コミュニティ・カレッジに通った経験があるので、カレッジで労働を教えることは大事だ。』と意気軒高だった。

【〇八年秋学期（九月一日～二月二一日）のコース】

- ・アメリカ労働史（三単位）毎週木夜三時間
- ・組合組織化戦略（三単位）毎週火夜三時間
- ・組合リーダーシップ（三単位）毎週水夜三時間
- ・苦情と調停（三単位）毎週木夜三時間
- ・職場の安全衛生（三単位）毎週水夜三時間
- ・協約交渉スキル（一単位）土曜二回各八時間
- ・苦情処理のスキル（一単位）土曜二回各八時間
- ・政治活動スキル（一単位）平日二日各八時間
- ・組合のための戦略計画（一単位）土曜二回各八時間
- ・職場の労働安全（一単位）土曜二回各八時間
- ・従業員福利厚生プラン（一単位）土曜二回各八時間
- ・労使調停の問題（一単位）平日四回各四時間
- ・労災補償保険（一単位）土曜二回各八時間
- ・カリフォルニア州労働者の権利（一単位）土曜二回各八時間
- ・研究指導（一単位）一・〇八時間毎週調整
- ・研究指導（二単位）二・〇八時間毎週調整
- ・研究指導（三単位）三・一七時間毎週調整
- ・研究指導（四単位）五・〇八時間毎週調整

【参考ウェブサイト】

ティームスターズ・レイバースタディズ &トレーニング
<http://edu.teamster.org/edulinksuslaborstudies.htm>

サンフランシスコ市立大学のレイバースタディコース
<http://www.ccsf.edu/Campuses/Evans/Labor.html>

ロサンゼルス・コミュニティ・カレッジ・ディストリクト
<http://www.laccd.edu/>

ドロレス・フェルタ労働研究所
<http://www.dhlaborinstitute.org/>

(1) コミュニティ・カレッジ・公立二年制のカレッジ。ハイスクールを卒業したすべての青年および成人に開かれ、原則として無償・希望者全員入学制であり、別名オーブン・ドア・カレッジとも呼ばれている。授業は昼間・夜間を通して行なわれ、①四年生大学後期課程への編入コース、②各種資格取得のための職業教育コース、③地域住民の学習要求にこたえる地域サービスのコースがある。

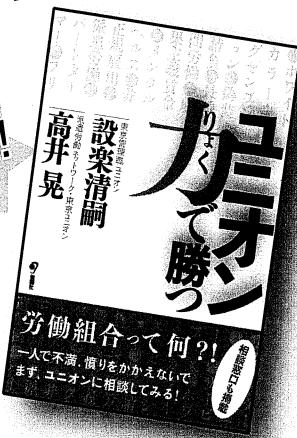
一〇世紀初頭、とくに一九二〇年代に発展したジュニア・カレッジが大衆化されたもの。カリフォルニアのコミュニティ・カレッジは代表的で、人口一〇万前後に一校、一〇〇校以上がある。住民の公選による大学理事会によって管理運営されている。

(たかす ひるひこ)
(おばた よしだけ)

一人で不満、憤りをかかえないで!
ユニオン(労働組合)がある!

働く者たちを襲う困難。
さまざまな問題を解決してきた
経験豊富な一人が、
現状を突破する闘い方を伝授!

好評発売中!



設楽清嗣 (したら・きよつぐ)

東京管理職ユニオン

高井 晃 (たかい・あきら)

NPO派遣労働ネットワーク、東京ユニオン

ユ
ニ
オ
ン
力
り
ょ
く
で
勝
つ

定価 1,575 円 (税込)

四六判 / 176 ページ

ISBN 978-4-8451-1020-9

<http://www.junposha.co.jp>

〒112-0015 東京都文京区日比谷 2-14-13
Tel : 03-3943-9911 Fax : 03-3943-8396

旬報社